# 大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版
# 大阪府の重点評価（結果）

受付番号 R5-変-0004

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

| | | |
|---|---|---|
| 【建物概要】 | 建物名称 | 株式会社テラモト　八尾物流センター |
| | 建設地 | 大阪府八尾市千塚 |
| | 用途／区分 | 事務所 工場 |

| | | |
|---|---|---|
| 【評価結果】 | CASBEE 総合評価 | B+ |
| ① | CO2削減 | 4 |
| ② | みどり・ヒート アイランド対策 | 2 |
| ③ | 建物の断熱性 | 評価対象外 |
| ④ | エネルギー削減 | 4 |
| ⑤ | 自然エネルギー直接利用 | — |

| 再生可能エネルギー利用施設の導入状況 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 太陽光発電 | — | 風力 | — | 地熱 | — | | — |
| 太陽熱利用 | — | 水力 | — | バイオマス | — | | — |

| エネルギー消費量の報告 | |
|---|---|

【評価項目】

| 項目 | 評価内容 | スコア | 評価 |
|---|---|---|---|
| ①　CO2削減 | CASBEE「LR3－1」のスコアによる評価 | 3.6 | 4 |
| ②　みどり・ヒートアイランド対策 | | | |
| 生物環境の保全と創出 | CASBEE「Q3－1」のスコアによる評価 | 1.0 | 2 |
| 敷地内温熱環境の向上 | CASBEE「Q3－3．2」のスコアによる評価 | 3.0 | |
| 温熱環境悪化の改善 | CASBEE「LR3－2．2」のスコアによる評価 | 3.0 | |
| ③　建物外皮の熱負荷抑制 | CASBEE「LR1－1」のスコアによる評価 | | - |
| ④　設備システムの高効率化 | CASBEE「LR1－3」のスコアによる評価 | 4.0 | 4 |
| ⑤　自然エネルギー利用 | CASBEE「LR1－2」のスコアによる評価 | 3.0 | — |
| エネルギー消費の実態把握に努める | エネルギー消費量の実績を3年間報告する。 | 報告する<br>報告しない | 報告しない |

**その他**

| | 技術の名称 | 考慮事項 |
|---|---|---|
| 先進的技術の導入 | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| 特に配慮した事項 | 建物の省エネルギー性能の向上に努めた。 | |

Confidential

# CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版　使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

## 1-1 建物概要

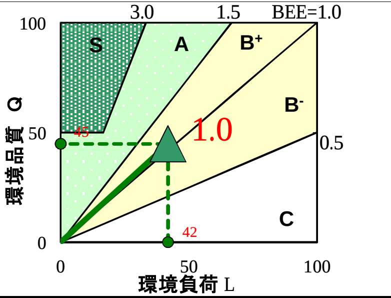
| | | | |
|---|---|---|---|
| 建物名称 | 株式会社テラモト 八尾物流センター | 階数 | 地上4F |
| 建設地 | 大阪府八尾市千塚 | 構造 | S造 |
| 用途地域 | 準工業地域、準防火地域 | 平均居住人員 | 14 人 |
| 地域区分 | 6地域 | 年間使用時間 | 3,000 時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 事務所,工場, | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2023年6月　予定 | 評価の実施日 | 2023年5月10日 |
| 敷地面積 | 2,487 ㎡ | 作成者 | 大和ハウス工業㈱ |
| 建築面積 | 1,314 ㎡ | 確認日 | 2023年5月15日 |
| 延床面積 | 4,038 ㎡ | 確認者 | 大和ハウス工業㈱ |

## 1-2 外観

## 2-1 建築物の環境効率（BEEランク&チャート）

BEE =1.0 ★★★

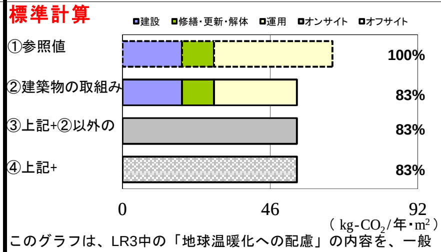
S: ★★★★★　A: ★★★★　B+: ★★★　B-: ★★　C: ★




## 2-2 ライフサイクル$CO_2$(温暖化影響チャート)

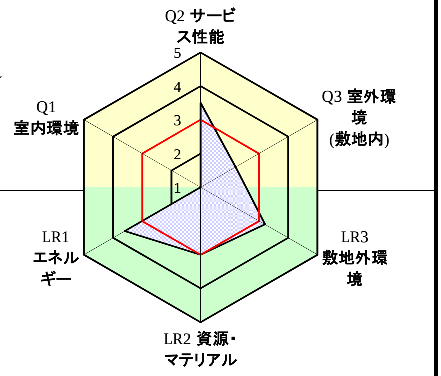
☆☆☆☆☆ (2 green, 3 grey)

30%: ☆☆☆☆☆　60%: ☆☆☆☆　80%: ☆☆☆　100%: ☆☆　100%超: ☆



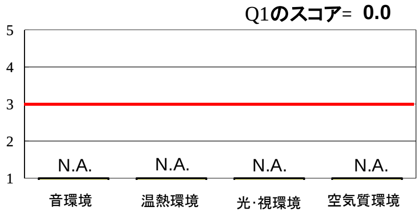

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

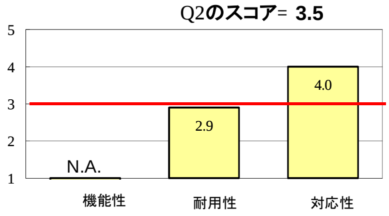
## 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

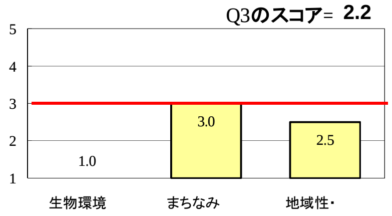



## 2-4 中項目の評価(バーチャート)

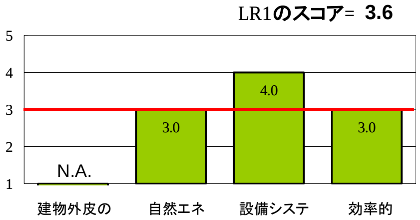
### Q 環境品質　Q のスコア= 2.7

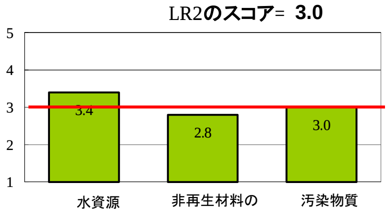


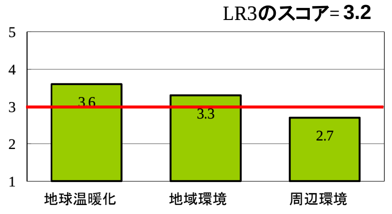




### LR 環境負荷低減性　LR のスコア= 3.3




## 3 設計上の配慮事項

**総合**

省エネルギーに配慮した、オール電化の建物となっている。

**その他**

**Q1 室内環境**

**Q2 サービス性能**

平均階高5.105m　ゆとりをもった設計になっている。

**Q3 室外環境（敷地内）**

空調室外機を屋上に設置し、排熱を高い位置から放出できるようにした。

**LR1 エネルギー**

BEIm0.70 基準より30%削減

**LR2 資源・マテリアル**

部材の再利用可能性向上に努めている

**LR3 敷地外環境**

燃焼機器を使用しないことで、屋外への大気汚染物質の発生を抑えている

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクル$CO_2$」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクル$CO_2$排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される